

# 平成 27 年度分自己評価 (自己点検) のまとめと考察

- 1 実施 平成27年4月～平成28年3月の教育活動等の自己評価をして平成28年3月28日(金)提出  
 2 該当職員

教諭・講師	事務関係	総計
56人	11人	67人

- 3 点検シートの種類(3種) ①学習指導(教科) ②生徒指導(HR・生活) ③事務関係

- 4 判断基準

A	B	C	D
十分満足できる	おおむね満足できる	少々努力を要する	かなり努力を要する

- 5 教諭・講師関係の大項目の集計

## 学習指導(教科)

- (1) 学習計画 ①学校の教育目標の趣旨にそって年間指導計画の作成に努めている。  
 ②生徒の実態に応じて、指導計画を柔軟に工夫して分かりやすい授業に配慮している。  
 ③生徒の一人ひとりの実態に応じた補足的・発展的な学習を創意工夫している。  
 ④学科・コースに応じた指導法や教材の開発に努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	29.8	62.7	7.6	0.0
H26 %	28.4	62.9	8.6	0.0
H25 %	26.4	67.1	6.5	0.0
H24 %	26.4	63.0	10.6	0.0
H23 %	31.5	59.1	9.5	0.0
H22 %	33.5	56.8	9.7	0.0
H21 %	29.1	61.1	9.2	0.4

- (2) 教科連携 ①教科担当の間で情報交換を深め、評価の観点を踏まえた指導の改善を行っている。  
 ②授業時数の確保と自習時間が0となるように教師間で入れ替え授業や代打授業に努めている。  
 ③考査等について担当者間で進捗や範囲、難易度等の打ち合わせをしている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	54.2	36.9	7.1	1.8
H26 %	53.4	41.4	5.2	0.0
H25 %	51.2	42.4	6.4	0.0
H24 %	55.0	39.8	5.3	0.0
H23 %	55.1	40.0	5.0	0.0
H22 %	53.4	42.0	4.5	0.0
H21 %	50.8	42.2	6.4	0.5

- (3) 授業改善 ①チャイムと同時に授業を始め、50分を有効に活用するように努めている。  
 ②生徒への発問や活動、板書計画等教授法の研究や実践に努めている。  
 ③生徒の理解度や評価結果に応じて、常に指導を振り返るなど、自らの指導改善に努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	31.5	58.3	10.1	0.0
H26 %	29.3	59.8	10.9	0.0
H25 %	23.0	68.4	8.6	0.0
H24 %	22.2	71.3	6.4	0.0
H23 %	29.5	58.4	11.6	0.6
H22 %	29.0	55.5	15.0	0.0
H21 %	33.0	59.0	6.9	1.1

- (4) 学習態度 ①授業開始の挨拶や机に整理整頓をさせて、落ち着いた雰囲気作りに努めている。  
 ②授業を真剣に受ける態勢や意欲的な意識作りに気を配っている。  
 ③授業における私語や忘れ物、立ち歩きなど妨害する生徒の指導に努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	44.0	54.2	1.8	0.0
H26 %	44.3	51.1	4.6	0.0
H25 %	40.2	54.6	5.2	0.0
H24 %	47.6	52.4	0.0	0.0
H23 %	44.3	50.3	5.4	0.0
H22 %	42.6	51.1	6.3	0.0
H21 %	45.5	51.3	3.2	0.0

★総合集計（4項目）

評価基準	A	B	C	D
H27 年度 %	39.1	53.8	6.7	0.4
H26 年度 %	38.9	53.8	7.3	0.0
H25 年度 %	34.5	58.9	6.6	0.0
H24 年度 %	36.9	56.0	7.0	0.0
H23 年度 %	39.0	52.7	8.1	0.1
H22 年度 %	39.3	51.8	8.9	0.0
H21 年度 %	38.8	54.1	6.6	0.5

生徒指導(HR・生活)

- (1) 生徒理解 ①学校・家庭・友人関係等あらゆる場面で工夫しながら生徒理解に努めている。  
 ②一人ひとりの心身の成長を図るために、授業以外の諸活動(LHR・総合・礼法・書写・SHR等)を効果的に活用するように努めている。  
 ③友人関係等で孤立し悩んでいる生徒等を把握し、カウンセリングに努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	35.5	54.4	10.1	0.0
H26 %	36.8	53.8	9.4	0.0
H25 %	36.3	52.4	11.3	0.0
H24 %	32.0	59.7	8.3	0.0
H23 %	32.9	56.9	9.6	0.6
H22 %	26.8	63.7	8.9	0.6
H21 %	25.3	65.4	7.7	1.6

- (2) 学習・進路 ①日頃から学習意欲を高めるようなクラス的环境作りに努めている。  
 ②個々の生徒の具体的な目標を決定させ、自己実現を図るようにきめ細かな実践に努力している。  
 ③日頃から進路情報の提供を行い、進路意識の啓発に努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	26.5	58.2	14.7	0.6
H26 %	25.7	59.6	12.9	1.8
H25 %	26.2	64.3	9.5	0.0
H24 %	24.3	65.1	10.7	0.0
H23 %	29.3	57.3	12.8	0.6
H22 %	28.7	55.6	14.6	1.2
H21 %	24.0	58.3	17.1	0.6

- (3) 集団生活 ①生徒とともにHRの目標作りに十分な時間をかけて、全員で練り上げる作成過程を重視し、  
 帰属意識を醸成するように努めている。  
 ②クラス委員の活動や学校行事等に意欲的に取り組ませるように努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	22.8	57.0	18.4	1.8
H26 %	28.6	54.5	17.0	0.0
H25 %	24.5	54.5	20.9	0.0
H24 %	29.1	52.7	18.2	0.0
H23 %	23.8	54.3	21.9	0.0
H22 %	20.6	54.2	23.4	1.9
H21 %	11.6	61.6	23.2	3.6

- (4) 生活指導 ①校則を遵守させるように効果的な指導を工夫している。  
 ②健康・安全の意識を高めながら、効果的な出席指導の取り組みに努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	30.7	56.1	12.3	0.9
H26 %	28.3	64.6	7.1	0.0
H25 %	27.7	66.1	6.2	0.0
H24 %	33.6	53.1	13.3	0.0
H23 %	31.3	56.5	12.2	0.0
H22 %	28.8	57.7	12.0	0.9
H21 %	21.5	65.3	13.2	0.0

- (5) 家庭と連携 ①学級通信・通知表・諸集金等の学級事務を迅速・正確に行うように努めている。  
 ②担任・生徒・保護者の2者・3者面談を積極的に活用して信頼関係を構築するように努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	30.8	56.1	11.2	1.9
H26 %	28.8	55.0	15.3	0.9
H25 %	28.2	60.9	10.9	0.0
H24 %	30.0	54.5	15.5	0.0
H23 %	29.4	54.9	15.7	0.0
H22 %	32.4	54.3	11.4	1.9
H21 %	22.7	60.9	12.7	3.9

(6) 分掌間連携 ①担任・副担任・教科担当の間で相互に連携しながら、個々の生徒の全人的成長を視点において指導に努めている。

②学年会等で情報交換しながら他と連携したクラス経営に努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	36.0	52.6	9.6	1.8
H26 %	33.0	54.8	12.2	0.0
H25 %	30.7	53.5	14.9	0.9
H24 %	29.2	59.3	11.5	0.0
H23 %	33.0	58.7	8.3	0.0
H22 %	29.2	63.7	7.1	0.0
H21 %	23.0	68.0	7.4	1.6

(7) 環境整備 ①清掃活動の意義を理解させて、教室等の掃除に取り組むように指導に努めている。

②教室(床・机の整頓・黒板・ロッカー・塵箱など)整備に心がけ、良好な学習環境作りに努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	43.9	49.1	7.0	0.0
H26 %	35.7	57.4	7.0	0.0
H25 %	37.7	57.0	5.3	0.0
H24 %	42.0	51.7	6.3	0.0
H23 %	39.3	55.4	5.4	0.0
H22 %	39.1	51.3	8.7	0.9
H21 %	31.8	55.6	11.1	1.6

(8) 表簿管理 ①出席簿や諸表簿、指導要録の記載・点検等は、提出期限を守り正確・適切に行うように努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	42.1	50.9	7.0	0.0
H26 %	48.3	46.6	5.2	0.0
H25 %	39.3	55.4	5.3	0.0
H24 %	46.4	41.1	12.5	0.0
H23 %	53.4	44.8	1.7	0.0
H22 %	55.9	42.4	1.7	0.0
H21 %	50.0	45.0	5.0	0.0

### ★総合集計 (8項目)

評価基準	A	B	C	D
H27年度 %	32.7	54.7	11.7	0.8
H26年度 %	33.2	55.8	10.8	0.2
H25年度 %	30.9	58.2	10.8	0.1
H24年度 %	31.6	56.7	11.7	0.0
H23年度 %	32.7	55.7	11.4	0.2
H22年度 %	30.9	56.6	11.6	0.9
H21年度 %	24.3	61.5	12.6	1.6

## 6 事務関係の大項目の集計

事務職 11人

(事務5、実習1、寮監3、技師1、保健1… 評価項目がそれぞれ異なるので集計からは除外)

(1) 業務処理・分掌運営

- ①担当した業務を的確かつ迅速に処理している。
- ②経営的感覚（コスト感覚）を持って工夫改善を図りながら、計画的・効率的に業務を処理している。
- ③日頃から学校運営全体を見据えながら仕事の目的や要点を押さえ、単純に前例踏襲で取り組まず、柔軟な発想と長期的展望を持って業務に当たっている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	18.2	60.6	21.2	0.0
H26 %	38.1	42.9	19.0	0.0
H25 %	23.8	57.1	19.0	0.0
H24 %	37.5	45.8	16.7	0.0
H23 %	20.0	63.3	16.7	0.0
H22 %	17.0	55.3	23.4	2.1

(2) 職務能力向上

- ①事務処理を行うに当たって、前例どおり機械的に処理するだけでなく関係法令等を確認しつつ、事務処理に関する基本的知識の習得に努めている。
- ②日頃から職務に関する新しい知識や必要な技術の習得に努め、職務に活かせるように心がけている。
- ③新しい知識や技術等を後任や同僚職員が簡単に処理できるようマニュアル化、知識の資産化に努めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	12.1	69.7	18.2	0.0
H26 %	19.0	57.1	23.8	0.0
H25 %	9.5	52.4	38.1	0.0
H24 %	20.8	45.8	33.3	0.0
H23 %	10.0	50.0	36.7	3.3
H22 %	8.3	56.3	29.2	6.3

(3) 他の職員との連携

- ①日頃から他の教職員とコミュニケーションを図るなどし、互いに協力しあえるような関係りに努めている。
- ②ただ協力するのではなく、最善の方法を話し合いながら協力している。
- ③必要に応じて他の教職員に協力を求めるなどして、組織で業務を進めている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	30.3	63.6	6.1	0.0
H26 %	39.0	58.5	2.4	0.0
H25 %	42.9	47.6	9.5	0.0
H24 %	33.3	45.8	20.8	0.0
H23 %	26.7	70.0	13.3	0.0
H22 %	38.3	48.9	12.8	0.0

(4) 家庭・地域との連携

- ①保護者や地域等から苦情や要望等を受けた場合、適切な対応を行い、管理職に引き継いでいる。
- ②関係者と交渉の必要がある場合は、不必要な摩擦を引き起こすことがないように言動には注意しつつも、粘り強く交渉に努めている。
- ③必要に応じ、学校外の関係機関との連絡・協力等が適切に行われている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	30.3	45.5	24.2	0.0
H26 %	45.5	45.5	9.1	0.0
H25 %	33.3	52.4	14.3	0.0
H24 %	33.3	54.2	12.5	0.0
H23 %	40.7	51.9	7.4	0.0
H22 %	30.0	47.5	15.0	7.5

(5) 倫理観

- ①法令や社会的ルール、モラルに沿った行動をとっているか。
- ②社会的責任を自覚し、適切な言動や行動をとっている。
- ③生徒や保護者の声にも真摯に対応し、公平な判断と行動をとっている。

評価基準	A	B	C	D
H27 %	30.3	66.7	3.0	0.0
H26 %	56.4	43.6	0.0	0.0
H25 %	38.1	61.9	0.0	0.0
H24 %	62.5	37.5	0.0	0.0
H23 %	51.5	39.4	9.1	0.0
H22 %	35.4	58.3	6.3	0.0

★総合集計（5項目）

評価基準	A	B	C	D
H27年度 %	24.2	61.2	14.5	0.0
H26年度 %	39.6	49.5	10.9	0.0
H25年度 %	29.5	54.3	16.2	0.0
H24年度 %	37.5	45.8	16.7	0.0
H23年度 %	29.4	53.6	16.3	0.7
H22年度 %	26.1	53.5	17.4	3.0

7 目標設定における遂行度・達成度の自己評価

遂行度	評価の目安
A	方法が極めて効果的かつ効率的に遂行された。
B	方法が標準的にかつ滞りなく遂行した。
C	方法の遂行に困難を生じた。また遂行できなかった。

達成度	評価の目安
a	方法を通して、自身に求められる到達水準以上の成果を上げた。
b	方法を通して、自身に求められる到達水準に見合う成果を上げた。
c	方法を通して、自身に求められる到達水準に見合う成果に及ばなかった

※統一項目ではないので集計は省き、設定した目標、遂行度、達成度の一例を記載

(1) 学習指導(教科指導)	(遂行度 , 達成度)
・生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を引き出す授業実践に努める。	A, a
・基礎学力を向上させ、数学嫌いをできる限り減少させる。	A, b
・生徒個人の理解力や習得度合に応じた授業を展開する。	A, a
・集団スポーツを通して、安全面に配慮した学習活動を徹底する。	A, a
・生徒の理解と意欲につながる導入・展開・板書などに心がける。	B, b
・英語のリスニング力を養成する。	B, b
・簿記の基礎知識を学ばせるとともに、事務処理能力を身につけさせる。	A, a
・授業で入試問題を取り入れ、受験に向けた意識をつける。	A, a
・随時、小テストを行い基礎知識(漢字や文法)の定着をはかる。	B, b
・日本文化の特色やその伝統の形式についての関心を深めさせる。	B, b
・内容を工夫し、積極的に運動を楽しむことができる環境をつくる	A, a
・英語学習の楽しさを味あわせる。	B, b
・歌唱を通して表現する楽しさ、喜びを味わう。	A, b
・公務員コースでは、頻度の高い問題は徹底的に定着させる。	B, a
(2) 生徒指導(HR・生活指導・特別活動)	
・生徒たちが毎日を元気で活き活きと学校生活を送れるように全力を注ぐ。	A, a
・他に対して思いやりのある行動がとれる人間の育成。	B, b
・さまざまな活動を通し、高校生としての自覚を持たせ意識の高い社会人を目指す。	B, b
・問題行動の抑止に努める。	A, a
・身なり、挨拶、時間を徹底して守らせる。	B, b
・部活動の活発化を目指す。	A, a
・生徒が食に関心を持ち、楽しく意欲的に商品開発に努めるように指導する。	B, b
・生徒ひとり一人が活躍できる場を増やし向上心を持って活動できるよう指導する。	B, b
・就職を希望した生徒が全員決まるように努力する。	A, b
・自分の興味関心のあることに触れる機会をつくり、意欲的に取り組む姿勢を育む。	B, b
・教員がお互いに理解・協力できる生徒指導の組織づくり。	B, b
・入学後の基礎的な生活習慣の確立と、礼儀やマナーの再教育。	A, a
・部活動を通し帰属意識を高め、自ら考え行動する態度を育てる。	B, b
・周囲に気配りしながら、自分の役割を果たすこと。	B, b
・国府まなびやの活動に積極的に参加させ自信を持たせる。	B, b
(3) 学校事務	
・学校会計事務処理を行うにあたってのより深い知識の習得。	B, c
・授業料納入システムの構築を図る。	C, c
・生徒・保護者へのプライバシーに配慮した事務処理等の確立。	A, a
・報告・連絡・相談を徹底し、他の職員との連携強化に努める。	B, b
・学校経営的感覚をもち、財務状況などの改善に努める。	A, b
・生徒の健康管理に努める。	A, b
・毎日の寮生活を通し、個の成長と集団形成ができるよう、指導・助言に努める。	B, b
・各種発行業務、文書受付は的確に処理する。	A, a

★各自設定の目標(遂行度、達成度)の評価

学習指導においては、A, aの評価が10人、C, cの評価が2人。生徒指導においては、A, aの評価が17人、C, cの評価が4人と、生徒たちと向き合い、一生懸命に取り組んでいる姿勢が見える。事務関係も、来客や電話の対応そして事務処理等をスムーズに実行しようとする意思が窺える。

## 8 考察

### (1) 考察の観点

平成21年度から自己評価(自己点検)を実施、平成27年度は7年目となる。また、平成22年度からは事務関係も入れ、全職員で実施している。教員は共通の点検項目で行なわれるが、事務関係は多岐の職種に分かれて点検項目に違いがあり、共通の項目について集計をする。

## (2) 集計についての留意点

- ①自己点検シートの学習指導と生徒指導、事務職関係の3種に分け集計、自己点検の評価基準(A B C D)に基づいて回答したものを大項目ごとで集計する。
- ②学習指導については学習計画(4)、教科連携(3)、授業改善(3)、学習態度(3)の4つの大項目で集計する。
- ③生徒指導については、生徒理解(3)、学習・進路(3)、集団生活(2)、生活指導は(2)、家庭と連携(2)、分掌間連携(2)、環境整備(2)、表簿管理(1)の8つの大項目で集計する。
- ④事務職関係については、業務処理・分掌運営(3)、職務能力向上(3)、他の職員との連携(3)、家庭・地域との連携(3)、倫理観(3)の5つの大項目で集計する。  
※ ( ) は小項目の数
- ⑤該当職員67人が回答する。職員の個別判断での回答であるため、点検項目の回答に有無があり回答の実数の集計と項目数の累計に差異が見られる。
- ⑥学習指導と生徒指導、事務関係の3種類について、全ての項目の集計の総合集計の評価をだす。
- ⑦各自の個々の目標設定と遂行度・達成度については、統一項目ではないので集計は省略してまとめた。  
※ 6ページを参照

## (3) まとめ

- ①学習指導 平成21～27年度の総合集計4項目の比較をすると、自己評価の「十分・おおむね満足できる」が、H21→H22→H23→H24→H25→H26→H27では、92.5→92.1→91.7→92.9→93.4→92.7→92.9%と、各項目とも著しい変化は見られないが、「かなり努力を要する」は0.5%→0%→0%→0%→0%→0%→0.5%と、指導計画や授業改善創意工夫に努めているのが数値で表れている。
- ②生徒指導 平成21～27年度の総合集計8項目の比較をすると、「十分・おおむね満足できる」H21→H22→H23→H24→H25→H26→H27では、85.8→87.5→88.4→88.7→89.1→90.0→87.4%と高い数値を表している。
- ③事務関係 今年度6回目の自己評価の取り組みを行った。事務関係は、職務が多岐にわたっているため点検基準項目が職務内容によって違うため、共通する項目をまとめて集計する。総合集計では同様85%が「十分・おおむね満足できる」と評価している。特に倫理観では「十分満足できる」と「おおむね満足できる」と合わせると97%となり、高い倫理意識を持ち業務に当たっていることが窺える。

## (4) 総括

1. 全体的に教諭・講師の自己評価は、「十分・おおむね満足できる」が一つの項目を除いて85%を上回り、教員としての高い意識をもち生徒を指導して行こうとする前向きな姿勢が伺える。「自立のための生徒心得」の徹底や、「キャリア教育の推進」など確実に生徒の資質を高め、「真に役立つ人材の育成」を教育の方針とする取り組みが浸透していると考えられる。
2. 学習指導の評価では、「十分・おおむね満足できる」が、授業改善を除く3項目で90%を上回っている。これは、多くの教員が学校の教育目標の趣旨を理解し、生徒ひとり一人の実態に応じた授業展開に努め、真剣に取り組んでいると考える。一方、26年度も授業改善の項目が90%を下回っている点では、教師自らが授業中の指導改善に真摯に向き合う必要があると思う。
3. 生徒指導の評価では、【表簿管理】や【環境整備】2つの項目を除く6つの項目で、「十分・おおむね満足できる」が90%を下回り、26年度と比較すると低い数字を表している。このことは、生徒指導に関して生徒ひとり一人と向き合う時間が全体的に不足してきていると考えられる。授業以外のホームルーム・掃除・部活動などで機会をとらえて積極的にコミュニケーションを深めることが肝要であろうと考える。しかし全項目で85%以上の高い評価をしているのも事実であり、生徒理解や家庭との連携など、信頼関係を構築する努力をしている様子も窺える。

以上

## 感想

### ① 学習指導

- ・3年生普通科・アスリートコースのシラバスを作成したが、特に1学期中間考査までの授業時数が少なく、その上クラスにより進度が様々であり、計画通りに進まなかった。もっと全体のバランスを考え計画を立て実践してゆきたい。



- ・センター試験で生徒の多くは予想通りの結果であった。3年に一回難しいとはいえ、予想を上回る結果はでないものであろうか、悩む。また、新課程の内容にもだいぶ慣れてきた。2次試験を受ける生徒への対策も十分なものが提供できている。
- ・3年進学コースでは小論文指導とセンター試験対策に重点を置いて指導にあたった。取り組みによって若干の個人差はでたものの、指導を必要とする生徒に対して柔軟に対応することができたと思う。
- ・生徒のコース別、学年別など実態が違う中で体育の授業を進めているが、授業計画に柔軟性を持って当たらないといけないことを再認識した。今後、さらなる工夫に努めていきたい。
- ・日々の業務に追われる中、できる範囲の中で工夫を行ってきた。現状に満足せずに、次年度はさらなるレベルアップを心がけたい。
- ・クラスにより雰囲気や理解度に違いがあり、それに合わせて板書を変えたり教材を随時かえるということまでは至らなかったと思う。しかし、授業の進め方や導入にはそれぞれ気を配り、少しでも意欲につながるよう努力した。
- ・英語の苦手な生徒が多く、苦手意識を払拭するまでには至っていないが、やる気の欠如による授業態度の悪さ等の指導は徹底してできた。
- ・語彙の定着のために毎時確認テストを実施したが、継続することによってかなりの生徒が語彙を増やすことはできたようだ。
- ・新たな指導法を模索して3年目となったが、これまでのやり方で良いところと変えるべきところが見えてきた。今後も生徒たちが力をつけられるような指導を行うための研究・実践を怠らないように努めていきたい。
- ・公務員試験に向けて、より効率のよい学習を行える授業を展開しなければいけないと思う。
- ・学習に対し興味関心を持たせ、表現活動につなげるという意味では指導法の研究・工夫などが必要だと感じている。基礎基本の充実も含め今後の課題として取り組んでいきたい。
- ・生徒が苦手とする古典分野の課外を年間を通して行った。授業でも内容読解と同時に文法事項の確認を毎時間行なったため、基本的知識の定着を図ることができた。併せて古文単語の強化を今後も行い読解力向上に努めていきたい。
- ・毎時間を有効に使い検定・考査に向け取り組ませることができました。板書方法・教材プリント等一層充実した内容にしていく必要があると感じました。
- ・クラスの中でも学力ややる気に温度差があり、授業展開に工夫が必要だとつくづく感じた。学力の高い生徒に関しては+αを考え個人添削に取り組みせて学力アップをはかっていきたい。

## ② 生活指導

- ・面談を定期的に行い、納得のいくコース選択ができるように指導ができた。これからも進路実現に向けてどのような学習をすべきか個別に指導を続けていきたい。
- ・日々の生活の中で「何事も進路とリンクさせて考えること」、「何のために取り組むのかという意義を考えさせること」を中心に指導した。しかし、生徒の価値観が次第に変化していくことに対応できないことがあり、面談等で個人的に話しかけるように心がけた。
- ・様々な場面で規律と生活習慣の確立を指導した。少しずつではあるが、生徒たちに伝わっているように感じる。部活動ではなかなか定期的な活動ができなかった。活動場所の確保と機材の確保が必要ではあるが、なかなか予算の関係で難しい面がある。
- ・部活動においては、試合に出られる選手と出られない選手の差をつけることなく指導し、生徒たちもそれぞれが学習面でも成果を上げてくれた。クラスにおいては、フィナンシャルコースということもあり、こちら側から生徒たちに求めるレベルを高くして厳しく指導した。
- ・保護者対応が多様化して、複雑化してきた昨今の教育現場においては、結論よりもその過程を重視し、決してマニュアル的や、単なる手法論にならないよう留意していく必要があると感じている。
- ・今年度は、国府まなびやをリードするクラスとして、生徒ひとり一人が活動の場を広げることで、大きく成長することができた。また31名全員が進路決定して卒業を迎え担任として安堵した。
- ・基礎基本的な生活を意識させ、実践させることの重要性を感じている。そのためには、より組織的に取り組むことが効果的である。学年会や日々の連携の中で、職員同士が共通認識を持てる環境をこれからもつくってきたい。
- ・保護者の協力を得られたクラス経営ができた。子どものことで何度も保護者と連絡を取り合うことが多く、直接会ったり、電話したりする以外にメールでのやりとりが増えてきた。
- ・今年度もクラスひとり一人への指導を心がけてはいましたが遅刻・頭髪指導に時間をとられ、全体的に共有する時間が不足していました。一層、個々人に応じた指導が必要だと痛感しました。
- ・生徒たちが前向きに物事をとらえられるように常に働きかけを行ってきた。浸透の度合いには個人差があるが指導の効果は現れてきていると感じている。ひとり一人の子どもたちと、より向かい合い、理解を深めて行きたい。